



まだまだ冷え込む日が続きます。風邪にインフルエンザに新型コロナウイルスと、いつにも増して気の抜けないこの冬。会員の皆さま、手洗いうがいはもちろんのこと、体調には気をつけて、どうぞあたたかくしてお過ごしください。

烏山病院には自転車で向かう世話人Iですが、寒いからこそそのゆしみがありません。それは、烏山病院の自転車置き場にたたずむ蠟梅（ロウバイ）の木。蠟梅は冬の冷たいこの時期に、黄色いちいさな花を咲かせる落葉樹。甘く清らかな花の香りを吸い込むと、胸にちいさな春が広がります。今年も自転車置き場の蠟梅が一足早く、春の香りを運んできました。高く澄んだ冬空に黄色い花、蠟梅の花言葉は「慈しみ」。冬の寒さに負けない蠟梅の花から、今年も黄色い勇気をもらいました。

さて今月号。烏山病院の医師、太田晴久先生が監修された書籍「職場の発達障害」の感想と、3月に開催する「親あるうちに聞いておきたいこと」講演会案内の二本です。講演会への皆さまのふるってのご参加、世話人一同お待ちしております。



■ 「職場の発達障害 自閉スペクトラム症編」を読んで ■

烏山病院で診察されている太田晴久先生(昭和大学附属烏山病院発達障害医療研究所准教授)の監修、リハビリテーションセンターの横井英樹先生(臨床心理士)と五十嵐美紀先生(精神保健福祉士)の監修協力により、講談社から昨年春に出版された本です。

太田先生は長く烏山病院で診察されており、家族のつどいなどでの講演実績もある先生ですし、横井先生と五十嵐先生はデイケアをはじめとした活動をされ、特に烏山東風の会は大変お世話になっている先生方で、会報の読者はご存知の方が大半だろうと思います。

既にお読みになった方も多いと思いますが、遅ればせながらご紹介させていただきます。全く同一監修体制でほぼ同様の章立ての、本書の続編ともいべき ADHD 編も昨年 11 月に出版されています。

さて、この本の構成(章立て)は以下の通りです。

- 巻頭「自分を理解しよう」
- 第1章「働きやすくするために 対人コミュニケーション」
- 第2章「働きやすくするために 仕事の進め方」
- 第3章「働きやすくするために 自己管理」
- 第4章「職場の人へ 特性を理解しよう」
- 第5章「自分と医療ができること」

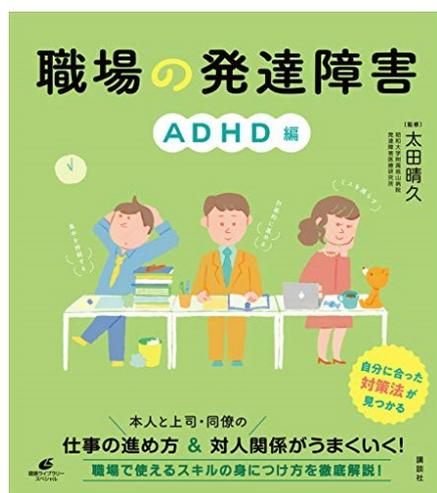


当事者が働きやすくするために、当事者や家族が気を付けるべきこと、職場で使えるスキルの身に付け方などについてよく整理されています。イラストやちょっとした気の利いたコメントなども豊富で、非常に読みやすい本です。



また、上司、同僚など会社の人にとって、当事者が働きやすくするためにできることは何かという理解は大切です。本書は発達障害の特性がある人を雇っている、あるいは雇おうとしている企業の人事の方、職場の上司や同僚の方に、第4章に限らず全体として目を通していただきたい本ですし、その点にも力を入れて書かれています。筆者が目を引かれたのは Q&A で、職場の人たちからの「こちらの配慮に対して『ありがとう』の一言がほしい」への回答として「配慮していることへの感謝を求めているのなら、報われることはないでしょう。それがコミュニケーションの障害ということなのです。」と載せていることです。加えて回答では、「ありがとうの言葉が社内の雰囲気をよくすることや、感謝を表すことが必要だということを説明すれば、理解はできます。」との補足がありますので、職場の方も納得されるのではないかと思います。なお、我が子の特性上、親に対してはもちろん他人に対しても、そう簡単には本人から感謝の言葉は出ないと肝に銘じておくべきと思いました。

ここまででも、本書の内容は類書の水準を超えるものと思ったのですが、圧巻は第5章です。筆者が「そうか」と改めて感じ入ったのは「そもそも『治る』とはどういうことか。そこから考えていきましょう。」というスタンスで、これは本書全体のバックボーンともいえるべき考え方のようです。「自閉スペクトラム症には根本的に効く薬はありません」ので、その特性をなくそう、改善しようが目標ではなく、「自分の能力をもって社会に適応できるようになることが『治る』ということ」だとして、社会に出て適応している人はそれで OK で診断名は必要なく、一方、適応できない人にとっては、社会に適応し幸せに生活することが目標で、その手段として治療をしていくことがベースだという考え方が、本書にはあります。「治療を進めるのは医師だけではありません。自分が主体的に進めることが大切です」ということだそうです。



この考え方は続編の ADHD 編でも同じで「治療の目標は特性を消失させることではありません。社会に適応でき、生きづらさを改善することです」と記されています。現在、少子高齢化が進み、感染症も相当程度克服されている中で、医療や治療の目標が「完治」、つまり完全に良好な状態に戻して病気を治すことから、症状に適応し何とかやりくりして当事者を支え「生活の質の向上を図る」に重点を移してきている流れの一環だと感じた次第です。

さらに本書では、ADHD との併存や二次障害など、そして烏山病院のデイケアの紹介、家族ができることや家族会への参加などについてもきちんと記されており、これらの部分は太田先生、横井先生と五十嵐先生の真骨頂といえる内容です。

以上、一知半解のコメントを並べたこと、ご容赦ください。どうか、当事者、家族の方、職場の方、まだお読みになっておられない方は、是非、手に取っていただくことをおすすめします。(K.K)



烏山東風の会 第10回

講演会開催のお知らせ

演題：「親あるうちに聞いておきたいこと」

～「法定後見制度と民事信託を中心に」～

烏山東風の会では、前回の講演会「親なきあと」に続く第2弾の講演会を開催します。発達障害の人を抱えたご家族は、どのような制度があるのか、どのくらい費用が掛かるのか、本当に大丈夫だろうかと大きな不安を抱えています。その不安を少しでも解消していく一助になればと企画しました。

今回の講師は、難しい法律をわかり易くお話しすることで定評のある弁護士さんに講演を依頼しました。当事者として行き詰る前に早期にチームを組み継続的に取り組んでいきたいという意欲のある方です。

皆様の多数の参加をお待ちしています。



◇講師：根本 雄司先生 弁護士法人おどおり総合法律事務所 弁護士

- ・日本弁護士連合会信託センター副センター長
 - ・神奈川県弁護士会成年後見センターみまもり運営副部長
- 法定後見制度と民事信託の相談および手続きを得意分野として活動されています。



■日時：3月20日(金)休日 13:30 受付 14:00～16:00 講演

◇会場：烏山区民センター 3階 集会室

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6丁目2-19 京王線 千歳烏山駅下車 徒歩1分

◇参加費：会員のご家族の方 無料（ご本人の参加も可です）

会員以外 資料代 500円（ご家族単位）

◇定員：100名（先着順）定員に達した場合は、ホームページに掲載します。

◇お申込み 下記を記入の上お申し込みください。

① 「3月20日講演会参加申し込み」

② お名前／電話番号 他の参加者がいらっしゃる場合は、その方のお名前

③ 東風の会会員／非会員（一般参加）の旨

・申し込み先は下記のいずれか

・ホームページのお問い合わせコーナー：<https://www.kochinokai.com/>

・SMS又はEメール：080-3009-1200 / kochinokai@au.com

・郵送：〒157-8577 世田谷区北烏山6-11-11

昭和大学附属烏山病院内 烏山東風の会





■「烏山東風の会」今後のスケジュール ■

～何でもお話下さい。心の壁紙の色と模様を替えてみませんか～

3月のスケジュール

- 世話人会 3月14日(土) 午後1時30分～午後5時
3月28日(土) 午後1時30分～午後5時
烏山病院 リハビリテーションセンター
- 家族相談会 3月26日(木) 午後1時30分～午後4時30分
烏山病院 発達障害医療研究所セミナー室
お問合せ：烏山東風の会携帯 080-3009-1200
kochinokai@au.com
烏山病院 リハビリテーションセンター
- 烏山東風の会女子会 3月28日(土) 午後1時30分～午後4時30分
烏山病院 リハビリテーションセンター
- 烏山東風の会 第10回講演会 3月20日(金) 詳細は3ページに記載



4月のスケジュール (詳細・場所は3月号参照)

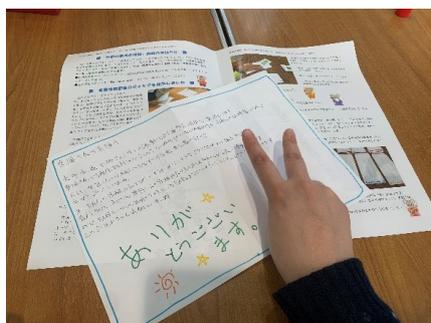
- 世話人会 4月11日(土) 午後1時30分～午後5時
4月25日(土) 午後1時30分～午後5時
- 家族相談会 4月21日(火) 午後1時30分～午後4時30分
- しゃべり場 4月11日(土) 午後1時30分～午後4時30分



デイケア写真館

東風の会の皆様へ

去年私達デイケアメンバーの活動である委員会活動に、東風の会の皆様が取材にいらしてくださいました。その時の活動内容は、会報の封入作業でした。そして、東風の会の会報(1月号)にととてもすてきな記事を書いてくださり、ありがとうございました。私個人の体験になってしまいますが、私はこれまであまり他の人のお役に立てた事がなくて、少しでも東風の会の皆様や先生方のお役に立てればと思い活動をしていますので、取材にいらした東風の会の方に「ありがとうございます」と言われてとても嬉しかったのです。これからも頑張ろうと思います。これからもよろしくお願ひ致します。(N)



デイケア 節分イベント

「デイケア向上委員会」プログラムの主催で2月3日に節分イベントをやりました。短い時間でしたが、みんな楽しそうに豆をまいていました。

鬼はデイケア向上委員会メンバーがやりました。「みんなの創作」で作ったお面を被ってやりました。巨大な鬼も登場して、スタッフもメンバーも楽しそうに豆を投げていました。お土産の豆ももらい、充実した1日になりました。(I)